

2015年度 後期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

---

*Tohoku University Accounting School*

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

## 1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設された。本大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律、倫理といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。本会計大学院の理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎セメスター終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として会計大学院のWEBサイトで公開している<sup>1</sup>。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この調査報告書の公開によって、本大学院の卒業生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート調査報告書を在学生在が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見だし、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。アンケート結果についてご意見等をいただければ幸いである。

本会計大学院では、前回の認証評価の結果や会計専門職をめぐる社会的状況をふまえ、2015年度より修了要件の変更をも含む大規模なカリキュラムの改訂を実施した。新たなカリキュラムの学生は1年次を終えた段階にあるので、現時点での確定的な評価はできないものの、今回のアンケートはその中間的な評価となる点を指摘しておきたい。

2016年4月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

---

<sup>1</sup> <http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2016a.html>

## 2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートは、2016年1月4日（月）から1月26日（火）の間に受講者に配布・実施された。アンケートの種類は以下に示す通りである。

- ①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」（巻末資料 1）
- ②「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末資料 2）

両アンケートともに無記名であり、「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」は1学生につき1回限りの回答とした。「会計大学院の授業に関するアンケート」は履修者が5名以上である全ての講義について実施し、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。なお、講義担当教員の希望があったものについては、履修者が5名未満の場合でも実施している。

本報告書では、まず「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果から、本会計大学院の教育システム全般に関する分析結果を示して、問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。続いて、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書では、アンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。

「会計大学院の授業に関するアンケート」の科目毎のアンケートの集計結果（アンケート質問項目17の自由質問を含む）と自由記入欄の記載内容は担当教員に原文を直接報告されている。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することを期待している。

### 3. 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果について

#### 3.1. アンケートの実施状況

本アンケート用紙は2016年度後期に開講された科目のうち、多数の会計大学院学生が履修する「監査2」（会計大学院学生の履修者24名）において配布・回収され、この科目を履修していない学生についてはワークショップ委員会から配布・回収を行った。回収数は18である（ただし、項目によって無回答の場合もある）。これは、会計大学院の在籍学生数の3割程度であるため、会計大学院全体の動向を反映していない可能性もあるが、1年次の回答が多いことから、カリキュラム改訂の評価としては適切なものとなっている（ただし、本アンケートの主旨には若干反するものとなっており、アンケートの実施方法については、次年度以降の課題といえる）。

#### 3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、直近8年度分の推移を示す。なお、全項目の集計結果については巻末資料を参照されたい。

設問1（表は未掲載）は受講者属性を問うものであり、18名の回答者のうち、14名が1年生であった（全て会計大学院学生）。したがって、本アンケート結果は1年生の意見を強く反映していると考えられる。このことは前期の通り新カリの評価としては適切ではあるが、1年生は俯瞰的にカリキュラムを評価することは困難である点に留意が必要である。

設問2：基礎、展開、実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

選択項目	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
適切である	20.00%	26.19%	50.00%	39.47%	35.71%	61.90%	65.22%	22.22%
ほぼ適切である	50.00%	45.24%	40.00%	31.58%	35.71%	28.57%	17.39%	66.67%
どちらともいえない	16.67%	19.05%	5.00%	26.32%	17.86%	0.00%	8.70%	11.11%
やや不適切である	13.33%	7.14%	5.00%	2.63%	10.71%	9.52%	8.70%	0.00%
不適切である	0.00%	2.38%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	30	42	20	38	28	21	23	18

設問3：セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

選択項目	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
適切である	10.00%	21.43%	31.58%	18.42%	31.03%	55.00%	47.83%	44.44%
ほぼ適切である	30.00%	28.57%	26.32%	23.68%	31.03%	30.00%	21.74%	38.89%
どちらともいえない	26.67%	28.57%	15.79%	18.42%	20.69%	10.00%	17.39%	5.56%
やや不適切である	26.67%	19.05%	15.79%	28.95%	13.79%	5.00%	8.70%	0.00%
不適切である	6.67%	2.38%	10.53%	10.53%	3.45%	0.00%	4.35%	11.11%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	30	42	19	38	29	20	23	18

設問4：オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数は。

選択項目	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
5回以上	6.67%	0.00%	25.00%	10.53%	6.90%	13.04%	21.74%	5.56%
4回または3回	16.67%	4.76%	10.00%	2.63%	17.24%	13.04%	13.04%	16.67%
2回	13.33%	16.67%	0.00%	10.53%	3.45%	4.35%	4.35%	5.56%
1回	10.00%	11.90%	10.00%	10.53%	27.59%	13.04%	21.74%	16.67%
利用しなかった	53.33%	66.67%	55.00%	65.79%	44.83%	56.52%	39.13%	55.56%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	30	42	20	38	29	23	23	18

設問5：セメスター開始時の個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

選択項目	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
役に立った	30.00%	23.81%	40.00%	23.68%	13.79%	60.00%	69.57%	38.89%
まあまあ役に立った	26.67%	47.62%	5.00%	36.84%	37.93%	25.00%	21.74%	44.44%
どちらともいえない	23.33%	26.19%	30.00%	23.68%	24.14%	10.00%	4.35%	5.56%
あまり役に立たなかった	16.67%	2.38%	5.00%	7.89%	17.24%	0.00%	0.00%	5.56%
役に立たなかった	3.00%	0.00%	20.00%	7.89%	6.90%	5.00%	4.35%	5.56%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	60.00%	100%	100%
総数	30	42	20	38	29	20	23	18

設問 6 : GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか.

選択項目	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
適切である	10.00%	7.14%	25.00%	10.53%	24.14%	18.18%	52.17%	33.33%
ほぼ適切である	33.33%	30.95%	15.00%	23.68%	17.24%	45.45%	4.35%	27.78%
どちらともいえない	36.67%	38.10%	55.00%	34.21%	41.38%	27.27%	26.09%	22.22%
やや不適切である	13.33%	14.29%	5.00%	18.42%	10.34%	9.09%	13.04%	11.11%
不適切である	6.67%	9.52%	0.00%	13.16%	6.90%	0.00%	4.35%	5.56%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	30	42	20	38	29	22	23	18

設問 7 : 受験のための自主学習には 1 日平均何時間くらい掛けていますか.

選択項目	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
5 時間以上	43.33%	34.15%	40.00%	43.24%	35.71%	25.00%	27.27%	44.44%
4-5 時間	20.00%	21.95%	5.00%	10.81%	17.86%	15.00%	18.18%	5.56%
3-4 時間	6.67%	9.76%	25.00%	8.11%	10.71%	15.00%	18.18%	11.11%
1-3 時間	16.67%	12.20%	5.00%	24.32%	17.86%	15.00%	13.64%	11.11%
1 時間未満	13.33%	21.95%	25.00%	13.51%	17.86%	30.00%	22.73%	27.78%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	30	41	20	37	28	20	22	18

注) 「1 時間未満」の項目は 2010 年度アンケートまでは「していない」であった.

設問 8 : e-mail, HP を用いた連絡システムは役に立ちましたか.

選択項目	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
役に立った	58.62%	57.14%	60.00%	71.05%	55.17%	55.00%	60.87%	72.22%
まあまあ役に立った	41.38%	23.81%	35.00%	23.68%	31.03%	35.00%	21.74%	11.11%
どちらともいえない	0.00%	16.67%	5.00%	5.26%	13.79%	5.00%	13.04%	16.67%
あまり役に立たなかった	0.00%	2.38%	0.00%	0.00%	0.00%	5.00%	4.35%	0.00%
役に立たなかった	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	55.00%	100%	100%
総数	29	42	20	38	29	20	23	18

設問 9 : 在学中の受験を考えていますか.

選択項目	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
考えている	82.76%	71.43%	63.16%	59.46%	48.28%	55.00%	47.83%	61.11%
まだ決めていない	6.90%	9.52%	10.53%	10.81%	13.79%	20.00%	21.74%	16.67%
考えていない	10.34%	19.05%	26.32%	29.73%	37.93%	25.00%	30.43%	22.22%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	29	42	19	37	29	20	23	18

設問 10 : OB 会について

選択項目	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
賛成	66.67%	57.14%	80.00%	78.38%	67.86%	65.00%	86.96%	64.71%
反対	3.70%	2.38%	5.00%	2.70%	10.71%	10.00%	4.35%	5.88%
分からない	29.63%	40.48%	15.00%	18.92%	21.43%	25.00%	8.70%	29.41%
計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%
総数	27	42	20	37	28	20	23	18

### 3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問2から10の集計結果を基に、問題点を抽出するとともに、対応を検討する。

設問2（基礎、展開、実践・応用の科目配置）については、これまでと同様に、アンケート時に「基礎」・「展開」・「実践・応用」の科目分類表を配布し、これを見ながらアンケートに回答してもらった。「適切である」と「ほぼ適切である」の合計は、90%近くになっており、現行の科目配置のバランスが適切であると考えられる。ただし、2014年度と異なり「ほぼ」とする回答が増えていることから、科目配置に対する評価は低下したともいえる。カリキュラム再編により、科目のナンバリングを進めたことから、科目分類よりもナンバリングを重視していることを反映している可能性もある。

設問3（ Semester間の開設授業科目のバランス）については、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計が8割を超えており、各教員の協力の下での成果が現れている。

設問4（オフィスアワー）については、基本的にこれまでと同じ傾向が示された。「1回」あるいは「利用しなかった」と回答した学生が7割程度いるのはこれまでと同じ傾向である。個人面談でも学生に質問しているが、教員に質問のある学生はほとんどの場合授業後に教員に相談に行き、別途オフィスアワーを利用することは少ないようである。他方で、3回以上利用している学生は20%を超えており、オフィスアワーの重要性を否定するものではない。

設問5（個人面談）については、これまでと同様「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が8割を超えており、効果が高いことが示唆された。また、この水準はこれまで以上に高いが、学生の進路が多様化する中で、個人面談のような one-to-one の指導体制が重要度を増していると考えられる。

設問6（GPAによる評価）では、「適切」と「ほぼ適切」の合計が、60%を超えており、一定程度の納得が得られているようである。学生の（個別の科目ごとではなく）総合的な能力（成果）を測定することは困難であるが、GPAは学生目線から見ても問題がないと判断されている傾向にある。また、会計大学院では、入学後の学生を選抜するプロセスでGPAを利用しているが、この指標に対する学生の信頼性が相当程度高いことは、この方針の妥当性を考える上で重要である。

設問7（受験勉強にかける時間）では、5時間以上掛ける者の割合が減少傾向にあったが、本年度では大幅に増えている。これは、公認会計士試験（および監査法人への就職）の状況の変化を反映しており、短期（在学中）での合格を目指す者が増えていることを反映している。

設問8（email, WEBを用いた連絡システム）については、「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が8割を超えており、現行の連絡システムで問題がないものと考えられる。

設問9（在学中の受験）では、「考えている」者の割合は減少傾向が続いていたが、増加に転じている。ただし、その水準は6割程度であり、以前として、多様な進路を目指す学生がいることを示している。我々も学生のニーズを汲み取り、より充実したカリキュラムを設計していきたい。

### 3.4. 新規科目の提案ならびに自由記述欄について

開講してほしい科目に関しては、IPOのような実践的なもの、NPO会計といった非営利法人会計、連結や税務会計といった会計の個別分野への要望があった。予算的制約もあり、全てを開講することはできないが、経済経営専攻科目において、それに関連する科目もあり、また、関連科目としての単位認定も実施されていることから、そうしたスキームの活用も検討するよう促していく必要がある。

また、自由記述欄では施設面では図書室の利用などの意見があった。こうした意見の存在は、教員、事務で共有して、改善できるところから改善したい。

#### 4. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

##### 4.1. アンケートの実施状況

前述の通り、本アンケートは履修者が5名以上の講義（23科目）について実施された。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると次のようになる。

授業科目名	履修者数	回収数
監査3	9	8
事例研究（法人税法）	4	3
財務会計の理論と実証	5	5
原価計算2	25	22
簿記2	17	17
情報システム設計	15	14
監査計画の編成法1	7	5
内部統制の実務	6	5
財務諸表分析	14	9
ビジネス・プレゼンテーション1	11	11
ビジネス・プレゼンテーション2	4	4
監査2	24	16
国際監査	12	7
経営戦略	7	7
管理会計1	21	12
財務会計2	17	14
ワークショップb	5	4
公会計1	6	6
事例研究（会計職業倫理）	4	4
事例研究（IFRS）	13	12
IFRS 1	8	8
コーポレートファイナンス	5	5
消費税法	8	6
合計	247	204

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる。

表1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、述べ履修者数247名に対して204名から回答を得た。アンケートの回答率は82.93%であり、この種のアンケートとしては高い水準にあり、結果の信頼性は高いと考えられる。なお、質問項目17は科目担当教員が独自に設定できる質問であり、アンケートの集計には含めていない。

#### 4.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため（設問1を除く）、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。あわせて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については資料2を参照されたい。

項目\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	72	172	21	16	40	73	139	162	155	150	166	134	161	120	143	67
4	105	16	5	4	13	90	48	26	34	40	29	50	29	31	47	2
3	19	6	6	11	14	33	9	8	8	7	4	16	8	28	9	86
2	5	4	27	27	23	5	3	1	3	1	1	0	1	13	1	0
1	0	0	84	92	67	1	1	4	1	3	1	1	2	9	1	42
0	0	-	59	49	43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	201	198	202	199	200	202	200	201	201	201	201	201	201	201	201	197
平均値	4.21	4.80	1.39	1.38	2.04	4.13	4.61	4.70	4.69	4.66	4.78	4.57	4.72	4.19	4.64	3.26
中央値	4	5	1	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
最頻値	4	5	1	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
標準偏差	0.71	0.68	1.51	1.39	1.82	0.81	0.69	0.75	0.67	0.71	0.55	0.68	0.66	1.17	0.64	1.47

表2：アンケートの基本統計量

これまでのアンケート結果と同様、設問3（予習）から設問5（宿題）と設問16（資格）以外は、平均値が概ね4以上であり、中央値や最頻値も4か5である。この傾向は過去数年と大きな違いはなく、会計大学院の講義に対する評価はこれまでと変わらず良好であると言ってよいだろう。

過年度と同様であるが、設問3～5からは会計大学院の授業に関連する勉強時間が少ない傾向にあることが分かる（1科目あたり平均して3時間以下の者がほとんどである）。他方で、宿題に要した時間を見ると、相当程度の時間を掛けているケースもあることから、一概に学生が講義に対する学修を怠っているとは言い難い。一つの考えた方として学生に対して具体的な課題を提示することが重要となるのかもしれない。

全体として、学生の各講義に対する評価は高い水準にあるといえる。ただし、学生側の勉強時間が決して多くないことをふまれば、会計大学院の目的に照らして妥当といえるかについては留保する必要がある。これについては、今後、GPAや公認会計士試験合格率等とのデータと関連付けて分析する必要がある。



#### 4.3. 各設問間の相関

質問項目間の相関関係をみるために、表3を作成した。なお、0.50以上の相関係数については太字にしている。設問16の資格については、より高い資格であるほど高いスコアとなるようになっている。

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1															
2 出席	-0.129	1														
3 予習	0.154	0.200	1													
4 復習	0.234	0.118	<b>0.691</b>	1												
5 宿題	0.227	-0.078	<b>0.527</b>	<b>0.513</b>	1											
6 理解	0.108	0.070	0.238	0.246	0.238	1										
7 難易度	0.137	0.002	0.122	0.172	0.230	0.291	1									
8 教員準備	0.100	0.125	0.098	0.055	0.130	0.076	<b>0.539</b>	1								
9 プレゼン	0.051	0.031	0.159	0.077	0.216	0.254	<b>0.510</b>	<b>0.687</b>	1							
10 教材	0.052	0.006	0.169	0.150	0.231	0.236	<b>0.556</b>	<b>0.591</b>	<b>0.730</b>	1						
11 評価方法	0.093	0.055	0.129	0.138	0.231	0.347	0.442	0.372	0.384	<b>0.574</b>	1					
12 シラバス	0.121	0.043	0.233	0.181	0.270	0.403	0.308	0.312	0.417	<b>0.530</b>	0.469	1				
13 教員評価	0.091	0.155	0.197	0.091	0.215	0.240	<b>0.626</b>	<b>0.761</b>	<b>0.814</b>	<b>0.756</b>	<b>0.550</b>	0.468	1			
14 対試験	0.028	0.052	0.072	0.235	0.112	0.278	0.402	0.296	0.251	0.351	0.316	0.324	0.383	1		
15 キャリア	0.017	0.145	0.143	0.120	0.252	0.276	0.266	0.397	0.402	0.376	0.372	0.391	0.474	0.353	1	
16 資格	-0.076	0.014	0.020	-0.020	0.120	0.120	-0.007	0.025	0.010	-0.058	0.135	0.021	0.022	0.078	0.035	1

表3：質問項目間の相関関係

過年度と同様に、設問3（予習）と設問4（復習）の間で比較的高い正の相関が見られる。これらの設問は学生の会計大学院の授業に関連する勉強時間についてのもので、予習等をよく行う学生は復習等もよく行うことを示している。

ここでは、学生の理解度（質問6）と教員に対する評価（質問13）の背景について検討したい。まず、学生の理解度について、高い相関係数が観察された項目はなく、学生の理解度を促す要因は特定の要因にあるというよりも、複数の要因が組み合わさっていると考えられる。このことは、教員が科目体系表にそって、適切な教育を、適切な教育方法の下で実施することが求められるという当然のことを示唆しているともいえる。

他方で、教員の評価については、難易度、教員準備、プレゼン、教材、評価方法と高い相関が観察されている。講義に対する教員の準備、教育手法、適切な評価が教員評価に結びつくことは当然であるといえるが、難易度が高いほど教員の評価が高まることは注目に値する。会計大学院の学生は、決してラクに単位を欲している訳ではなく、より高度な講義内容を求めているとも考えられる。

なお、こうした傾向は過去と同様のものである。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院のWEBサイトを参照されたい (<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2016a.html>)。

#### 4.4. 設問ごとの集計結果と所見（自己評価）

以下では、それぞれの設問についての集計結果と過去4年間の推移を示し、各々所見を示す。なお、アンケート全項目の集計結果については巻末資料4を参照されたい。

##### 設問1：該当するものを選んでください（受講者属性）

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
公認会計士コース（2年）	38.73%	24.47%	49.34%	34.29%	38.24%	29.84%	33.47%	35.82%
公認会計士コース（1年）	53.29%	61.70%	41.69%	51.07%	40.44%	54.84%	52.99%	52.24%
会計リサーチコース	3.76%	5.67%	7.39%	8.93%	15.07%	10.08%	7.97%	9.45%
経済経営学専攻	1.41%	4.61%	1.06%	3.57%	2.57%	1.61%	2.39%	2.49%
経済学部	2.58%	3.19%	0.53%	2.14%	1.84%	2.02%	1.59%	0.00%
その他	0.23%	0.35%	0.00%	0.00%	1.84%	1.61%	0.00%	0.00%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	426	282	379	280	272	248	251	201

大きな傾向の変化はなかった。

##### 設問2：この講義にどのくらい出席しましたか。

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
90%以上	78.17%	61.92%	69.35%	71.84%	88.55%	85.37%	88.26%	86.87%
89-70%	12.91%	23.13%	18.55%	12.64%	6.87%	8.54%	8.50%	8.08%
69-50%	4.46%	9.25%	4.84%	9.75%	2.67%	2.85%	0.81%	3.03%
49-20%	3.05%	1.78%	4.03%	3.25%	0.38%	1.22%	0.40%	2.02%
20%未満	1.41%	3.91%	3.23%	2.53%	1.53%	2.03%	2.02%	0.00%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	426	281	372	279	262	246	247	198

2014年以降の高出席率の傾向が持続している。各教員によるきめ細やかな講義運営の成果であると考えられる。

以下、設問3から5は、学生の時間外での学習に係る設問であることからまとめて検討する。

##### 設問3：この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
5時間以上	4.48%	4.95%	5.84%	7.17%	4.10%	8.87%	7.60%	10.40%
4-5時間	1.42%	4.24%	4.24%	5.38%	2.61%	5.65%	0.80%	2.48%
3-4時間	5.19%	6.36%	6.63%	9.32%	4.85%	5.24%	2.80%	2.97%
2-3時間	12.03%	12.37%	14.32%	14.70%	14.93%	12.10%	10.00%	13.37%
1-2時間	36.79%	38.17%	35.54%	34.41%	32.46%	31.05%	38.00%	41.58%
1時間未満	40.09%	33.92%	33.42%	29.03%	41.04%	37.10%	40.80%	29.21%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	424	283	377	279	268	248	250	202

##### 設問4：この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
5時間以上	3.78%	3.18%	5.85%	6.05%	5.20%	8.84%	8.03%	8.04%
4-5時間	2.84%	3.53%	3.46%	4.63%	2.60%	5.62%	2.01%	2.01%
3-4時間	7.57%	4.95%	6.65%	10.68%	5.95%	7.23%	3.61%	5.53%
2-3時間	17.26%	17.67%	19.15%	17.79%	18.22%	12.85%	17.67%	13.57%
1-2時間	40.90%	44.17%	39.63%	38.79%	39.03%	36.14%	42.57%	46.23%
1時間未満	27.66%	26.50%	25.27%	22.06%	29.00%	29.32%	26.10%	24.62%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	423	283	376	281	269	249	249	202

設問5：この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
5時間以上	8.29%	10.36%	9.07%	23.38%	10.37%	16.05%	10.08%	20.00%
4-5時間	8.06%	5.00%	7.73%	5.40%	5.19%	10.70%	0.81%	6.50%
3-4時間	14.45%	12.50%	16.27%	13.67%	9.63%	11.93%	10.48%	7.00%
2-3時間	18.72%	22.86%	22.40%	20.50%	22.96%	11.11%	18.15%	11.50%
1-2時間	29.62%	31.79%	27.73%	19.42%	29.26%	23.87%	31.45%	33.50%
1時間未満	20.85%	17.50%	16.80%	17.63%	22.59%	26.34%	29.03%	21.50%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	422	280	375	278	270	243	248	201

本アンケートは、科目ごとに実施されていることから、これらの回答は科目あたりの数値である。科目の特性として、予習、復習、宿題のいずれに重点を置くかは分かれるところであろう（例えば、少人数科目では、次回の講義での報告〔予習ないし宿題〕に重点が置かれるであろうし、講義系の科目では、小テスト等が頻繁に実施されることから、復習に重点が置かれるであろう）。したがって、ここでの情報から、学生が適切な授業外での学習をしているか否かについて判断することは困難である。しかし各項目で2時間未満の回答が相当数あることから、科目選択によっては、授業外での学習をしなくても「何とかなる」ケースがあると考えられる。他方で、3時間以上の授業外での学習に時間をあてている学生も相当数あることから、平均的には学生は真摯に学習に取り組んでいると考えられる。今後とも、講義の属性に応じた適切な講義外学習を促すよう、各教員の工夫が求められる。

設問6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
理解できた	29.83%	29.33%	37.57%	42.29%	37.55%	38.15%	38.25%	36.14%
ほぼ理解できた	46.06%	42.05%	40.48%	38.71%	42.01%	46.99%	37.85%	44.55%
どちらともいえない	18.62%	20.85%	18.52%	14.70%	17.47%	12.45%	20.72%	16.34%
あまり理解できなかった	4.30%	5.65%	2.65%	3.23%	2.97%	2.41%	2.39%	2.48%
理解できなかった	1.19%	2.12%	0.79%	1.08%	0.00%	0.00%	0.80%	0.50%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	419	283	378	279	269	249	251	201

講義内容を「理解できた」または「ほぼ理解できた」と回答した学生の割合は、変化はなく概ね8割程度となっており、講義内容を理解できた学生の割合が大半を占めることがわかる。前年度に引き続き高い水準であり、この水準を維持する必要があると考えられる。

設問7：この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
適切	56.24%	49.29%	65.87%	68.21%	75.00%	76.71%	68.13%	69.50%
ほぼ適切	27.76%	32.27%	23.81%	23.21%	19.40%	16.47%	23.51%	24.00%
どちらともいえない	13.18%	15.60%	8.73%	7.14%	4.85%	6.43%	7.57%	4.50%
やや不適切	2.12%	1.06%	1.32%	0.71%	0.75%	0.40%	0.80%	1.50%
不適切	0.71%	1.77%	0.26%	0.71%	0.00%	0.00%	0.00%	0.50%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	425	282	378	280	268	249	251	201

難易度が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割を超えており、学生目線としては会計大学院としての講義の適切性が高いと認識されている。

設問 8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
十分	66.82%	67.38%	73.47%	80.29%	80.44%	86.35%	81.67%	80.60%
ほぼ十分	18.96%	22.70%	20.42%	16.85%	13.28%	10.44%	10.76%	12.94%
どちらともいえない	10.90%	8.16%	5.57%	2.51%	5.17%	2.01%	5.18%	3.98%
やや不十分	2.13%	1.06%	0.27%	0.36%	0.74%	0.40%	1.20%	0.50%
不十分	1.18%	0.71%	0.27%	0.00%	0.37%	0.80%	1.20%	1.99%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	422	282	377	279	271	249	251	201

教員の準備が「十分」または「ほぼ十分」と回答した学生の割合は9割を超えており、これまでと同様に非常に高い水準にあると考えられる。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 9：教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
良かった	60.90%	65.96%	76.72%	79.21%	77.78%	85.54%	76.10%	77.11%
まあまあ良かった	21.99%	20.21%	16.67%	15.77%	15.93%	11.65%	15.54%	16.92%
どちらともいえない	12.53%	7.09%	5.82%	5.02%	3.70%	2.41%	4.78%	3.98%
やや悪かった	3.07%	3.55%	0.53%	0.00%	1.48%	0.00%	1.99%	1.49%
悪かった	1.42%	3.19%	0.26%	0.00%	1.11%	0.40%	1.59%	0.50%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	423	282	378	279	270	249	251	201

教員のプレゼンテーションが「良かった」または「まあまあ良かった」と回答した学生は9割を超えており、前年度同様に非常に高い水準にあると考えられる。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
適切	53.79%	56.74%	68.78%	78.21%	71.96%	82.33%	70.52%	74.63%
ほぼ適切	25.83%	26.95%	21.96%	16.79%	18.08%	14.86%	19.52%	19.90%
どちらともいえない	15.17%	10.28%	7.14%	5.00%	8.12%	2.41%	7.57%	3.48%
やや不適切	4.03%	4.61%	1.85%	0.00%	0.74%	0.40%	0.80%	0.50%
不適切	1.18%	1.42%	0.26%	0.00%	1.11%	0.00%	1.59%	1.49%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	422	282	378	280	271	249	251	201

テキスト等が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割を超えており、前年度同様に非常に高い水準にある。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 11：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
適切	59.72%	52.48%	66.14%	76.43%	74.07%	79.52%	76.49%	82.59%
ほぼ適切	21.33%	32.27%	25.93%	15.36%	18.15%	15.66%	19.12%	14.43%
どちらともいえない	14.45%	12.06%	7.14%	7.14%	5.19%	3.61%	3.98%	1.99%
やや不適切	3.55%	1.77%	0.53%	1.07%	1.85%	1.20%	0.00%	0.50%
不適切	0.95%	1.42%	0.26%	0.00%	0.74%	0.00%	0.40%	0.50%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	422	282	378	280	270	249	251	201

成績評価の方法が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割程度になっており、前年度同様に非常に高い水準にある。成績評価はGPAによる評価の基礎となっており、適切に行う必要があることは言うまでもないが、学生が納得しているかも重要である。ほとんどの学生は適切に成績評価が行われていると感じており、今後もこれを維持する必要があると思われる。

設問 12：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
役に立った	46.45%	44.33%	57.41%	67.50%	67.16%	72.18%	68.92%	66.67%
まあまあ役に立った	27.49%	36.17%	31.48%	22.14%	18.45%	20.56%	21.12%	24.88%
どちらともいえない	19.19%	14.18%	8.99%	9.64%	9.96%	5.65%	8.76%	7.96%
あまり役に立たなかった	5.45%	4.26%	1.32%	0.71%	1.48%	0.81%	0.80%	0.00%
役に立たなかった	1.42%	1.06%	0.79%	0.00%	2.95%	0.81%	0.40%	0.50%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	422	282	378	280	271	248	251	201

シラバスが「役に立った」または「まあまあ役に立った」と回答した学生の割合は9割前後の水準となっており、前年度同様に高い水準を維持している。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 13：総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
評価できる	58.39%	56.74%	72.22%	77.14%	77.49%	83.53%	76.49%	80.10%
まあまあ評価できる	25.06%	25.18%	22.22%	19.64%	16.61%	13.65%	18.73%	14.43%
どちらともいえない	13.48%	13.12%	4.76%	2.86%	3.32%	1.61%	1.59%	3.98%
あまり評価できない	1.65%	3.90%	0.79%	0.36%	1.11%	0.40%	1.99%	0.50%
評価できない	1.42%	1.06%	0.00%	0.00%	1.48%	0.80%	1.20%	1.00%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	423	282	378	280	271	249	251	201

教員のパフォーマンスを「評価できる」または「まあまあ評価できる」とした学生の割合は9割前後の水準となっており、前年度同様に高い水準を維持している。総合的に教員に対する学生からの満足度は高いと考えられるため、今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 14：この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
役立つ	39.29%	32.98%	52.25%	54.64%	61.94%	62.35%	57.37%	59.70%
まあまあ役に立つ	22.38%	27.30%	25.20%	23.93%	20.90%	15.38%	18.73%	15.42%
どちらともいえない	27.86%	24.11%	15.38%	14.29%	11.19%	14.98%	16.33%	13.93%
あまり役に立たない	6.67%	6.03%	3.45%	3.21%	3.36%	4.86%	3.19%	6.47%
役に立たない	3.81%	9.57%	3.71%	3.93%	2.61%	2.43%	4.38%	4.48%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	420	282	377	280	268	247	251	201

公認会計士試験の受験に「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生の割合は本年度において8割弱の水準にあった。会計大学院は必ずしも公認会計士試験に「直結」する科目ばかりが設定されている訳ではないことから、この程度の水準が妥当であると考えられる。

設問 15：この講義は将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。

選択項目	2012 前期	2012 後期	2013 前期	2013 後期	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期
役立つ	53.32%	48.39%	58.02%	65.23%	72.01%	77.24%	70.28%	71.14%
まあまあ役に立つ	29.62%	30.11%	25.94%	25.81%	19.40%	17.48%	18.07%	23.38%
どちらともいえない	12.56%	15.41%	12.83%	6.81%	6.34%	3.25%	8.43%	4.48%
あまり役に立たない	3.32%	3.58%	2.14%	1.43%	0.75%	0.81%	2.81%	0.50%
役に立たない	1.18%	2.51%	1.07%	0.72%	1.49%	1.22%	0.40%	0.50%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	422	279	374	279	268	246	251	197

将来のキャリアに「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生は、とりわけ後期において高い水準にある。4月入学生の方が多い現状の下で、応用・発展的な科目は後期に受講されるケースが多いと考えられ、そうした科目について有用性が認められているといえよう。

最後に、設問 16「あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい」につき、2015 年度後期より質問方法を変更しているため、本年度分の集計となる。ここでは、資格試験を 3 段階（① 日商簿記 1 級レベル以上、② 2 級レベル、③ それ以下）にあるのかについて問うた。入試段階で一定の簿記の素養を確認しているため、学生は概ね日商簿記 2 級レベル以上の実力は有していると考えられる。ただし、本質問では、資格の有無を問うているので、必ずしも実力と連動するわけではないことに留意が必要である。

2015 年の後期では、① 34%、② 43%、③ 21% 程度であった。学生の 3 分の 1 程度が、1 級レベル以上の知識を有しており、高度な計算能力を有していることがわかる。その一方で（先の留意点をふまえて）③ も 2 割程度いることから、計算能力に係る学生の実力差は大きいといえる。

#### 4.5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、改善すべき点は改善を行うよう依頼している。

## 5. 結び

以上、2015年度に関する授業・カリキュラムに関するアンケートに関する評価・分析について述べてきた。アンケートの結果を踏まえると、本会計大学院の授業やカリキュラムの優れた点や改善すべき点の平均的な傾向は過年度から大きく変化していない。本年度からカリキュラム改革を実施しているが、この改革に大きな問題はないともいえる一方、これまでの課題の克服に至っていないともいえる。今後、カリキュラム改革について、問題点があれば、改訂を重ね、よりよい教育を提供できるよう不断の努力が必要であると考えられる。

最後になるが、アンケートに真摯に取り組んでくれた学生各位に感謝するとともに、在學生にはさらに充実した大学院生活を送り、希望の進路を進めることを、そして卒業生には様々なフィールドで活躍できることを希望している。

資料1：2015年度「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」設問用紙

会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート（2015年度後期）

このアンケートは、学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラム改善に役立てることを目的として行うものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (4) 公認会計士コース（1年） (3) 会計リサーチコース (2) 経済経営学専攻 (1) 経済学部 (0) その他

カリキュラムについて

番号	質問	回答
2	基礎、展開、実践・応用科目（注）の配置は適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
3	セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
4	オフィスマナーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数についてお答えください。	(5) 5回以上 (4) 4回または3回 (3) 2回 (2) 1回 (1) 利用しなかった
5	セメスター開始時に行われる個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった
6	成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である
7	講義の予習・復習・宿題以外に、公認会計士試験のための自主学習には1日平均何時間くらい時間を掛けていますか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 1-3時間 (1) 1時間未満
8	本大学院では、学生への連絡・掲示媒体としてe-mail、HPを用いていますが、このシステムは役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった
9	在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか？	(5) 考えている (4) まだ決めていない (3) 考えていない
10	会計大学院OB会を組織したいと考えています。OB会創設に関してご意見をお聞かせ下さい。	(5) 賛成 (4) 反対 (3) 分からない 《特にご意見のある方は、自由記入欄へご記入下さい。》
11	今後、新たに開設すべき科目がありますか？	自由記入欄に3つ以内で回答して下さい。

(注) 科目分類については裏面を参照して下さい。

基礎科目：各科目領域（会計・経済と経営・ITと統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する。

展開科目：基礎科目の理解を前提とし、より高度な内容を学習する。

実践・応用科目：基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

アンケートは以上です。御協力感謝致します。



資料2：2015年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

会計大学院の授業に関するアンケート（2015年度後期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (4) 公認会計士コース（1年） (3) 会計リサーチコース (2) 経済経営学専攻 (1) 経済学部 (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この講義にどのくらい出席しましたか？	(5) 90%以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20%未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。
5	この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった	
7	この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	この講義が基礎、展開、実践・応用科目（注）の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

（注）実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	講義を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この講義は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士 短答式・論文集 or 日商簿記1級 (3) 日商簿記2級 (1) 上記について無し	(5) と (3) の両者に該当する方は、(5) のみ回答してください。
17	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
18	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料3：2015年度「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース(2年)	4	22.22%
	公認会計士コース(1年)	12	66.67%
	会計リサーチコース	2	11.11%
	経済経営学専攻	0	0.00%
	経済学部	0	0.00%
	その他	0	0.00%
	合計	18	100.00%
設問2 基礎, 展開, 実践・応用科目の配置は適切だと思いますか.	適切である	11	61.11%
	ほぼ適切である	3	16.67%
	どちらともいえない	4	22.22%
	やや不適切である	0	0.00%
	不適切である	0	0.00%
	合計	18	100.00%
設問3 Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか.	適切である	8	44.44%
	ほぼ適切である	7	38.89%
	どちらともいえない	1	5.56%
	やや不適切である	0	0.00%
	不適切である	2	11.11%
	合計	18	100.00%
設問4 オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数.	5回以上	1	5.56%
	4回または3回	3	16.67%
	2回	1	5.56%
	1回	3	16.67%
	利用しなかった	10	55.56%
	合計	18	100.00%
	設問5 Semester開始時の個人面談は, 学習計画を立てる上で役に立ちましたか.	役に立った	7
まあまあ役に立った		8	44.44%
どちらともいえない		1	5.56%
あまり役に立たなかった		1	5.56%
役に立たなかった		1	5.56%
合計		18	100.00%
設問6 GPAによって学生の能力を適切に評価できると思えますか.	適切である	6	33.33%
	ほぼ適切である	5	27.78%
	どちらともいえない	4	22.22%
	やや不適切である	2	11.11%
	不適切である	1	5.56%
	合計	18	100.00%
設問7 受験のための自主学習には1日平均何時間くらいかけていますか.	5時間以上	8	44.44%
	4-5時間	1	5.56%
	3-4時間	2	11.11%
	1-3時間	2	11.11%
	1時間未満	5	27.78%
	合計	18	100.00%
設問8 e-mail, HPを用いた連絡システムは役に立ちましたか.	役に立った	13	72.22%
	まあまあ役に立った	2	11.11%
	どちらともいえない	3	16.67%
	あまり役に立たなかった	0	0.00%
	役に立たなかった	0	0.00%
	合計	18	100.00%
設問9 在学中の受験を考えていますか.	考えている	11	61.11%
	まだ決めていない	3	16.67%
	考えていない	4	22.22%
	合計	18	100.00%
設問10 OB会について	賛成	11	64.71%
	反対	1	5.88%
	分からない	5	29.41%
	合計	17	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります.

資料4：2015年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 あなたの専攻・コース(学年)について、該当するものを選んで下さい。	公認会計士コース(2年)	72	35.82%
	公認会計士コース(1年)	105	52.24%
	会計リサーチコース	19	9.45%
	経済経営学専攻	5	2.49%
	経済学部	0	0.00%
	その他	0	0.00%
	合計	201	100.00%
設問2 この講義にどのくらい出席しましたか。	90%以上	172	86.87%
	89-70%	16	8.08%
	69-50%	6	3.03%
	49-20%	4	2.02%
	20%未満	0	0.00%
	合計	198	100.00%
設問3 この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	21	10.40%
	4-5時間	5	2.48%
	3-4時間	6	2.97%
	2-3時間	27	13.37%
	1-2時間	84	41.58%
	1時間未満	59	29.21%
	合計	202	100.00%
設問4 この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	16	8.04%
	4-5時間	4	2.01%
	3-4時間	11	5.53%
	2-3時間	27	13.57%
	1-2時間	92	46.23%
	1時間未満	49	24.62%
	合計	199	100.00%
設問5 この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	40	20.00%
	4-5時間	13	6.50%
	3-4時間	14	7.00%
	2-3時間	23	11.50%
	1-2時間	67	33.50%
	1時間未満	43	21.50%
	合計	200	100.00%
設問6 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。	理解できた	73	36.14%
	ほぼ理解できた	90	44.55%
	どちらともいえない	33	16.34%
	あまり理解できなかった	5	2.48%
	理解できなかった	1	0.50%
	合計	202	100.00%
設問7 この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。	適切	139	69.50%
	ほぼ適切	48	24.00%
	どちらともいえない	9	4.50%
	やや不適切	3	1.50%
	不適切	1	0.50%
	合計	200	100.00%
設問8 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。	十分	162	80.60%
	ほぼ十分	26	12.94%
	どちらともいえない	8	3.98%
	やや不十分	1	0.50%
	不十分	4	1.99%
	合計	201	100.00%

	選択項目	人数	割合
設問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	十分	155	77.11%
	ほぼ十分	34	16.92%
	どちらともいえない	8	3.98%
	やや不十分	3	1.49%
	不十分	1	0.50%
	合計	201	100.00%
設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	150	74.63%
	ほぼ適切	40	19.90%
	どちらともいえない	7	3.48%
	やや不適切	1	0.50%
	合計	201	100.00%
設問11 この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。	適切	166	82.59%
	ほぼ適切	29	14.43%
	どちらともいえない	4	1.99%
	やや不適切	1	0.50%
	合計	201	100.00%
設問12 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	134	66.67%
	まあまあ役に立った	50	24.88%
	どちらともいえない	16	7.96%
	あまり役に立たなかった	0	0.00%
	合計	201	100.00%
設問13 総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。	評価できる	161	80.10%
	まあまあ評価できる	29	14.43%
	どちらともいえない	8	3.98%
	あまり評価できない	1	0.50%
	合計	201	100.00%
設問14 この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。	役立つ	120	59.70%
	まあまあ役に立つ	31	15.42%
	どちらともいえない	28	13.93%
	あまり役に立たない	13	6.47%
	合計	201	100.00%
設問15 この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。	役立つ	143	71.14%
	まあまあ役に立つ	47	23.38%
	どちらともいえない	9	4.48%
	あまり役に立たない	1	0.50%
	合計	201	100.00%
設問16 あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	日商簿記1級レベル以上	67	34.36%
	日商簿記2級	86	44.10%
	上記について無し	42	21.54%
	合計	195	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

2015 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	木村 史彦
委員	青木 雅明
委員	高橋 美穂子
委員	米谷 健司

会計大学院アンケート実施報告書 2015 年度後期

2016 年 4 月発行

編集・発行：東北大学会計大学院ワークショップ委員会